

令和3年度第2回 岩手県障害者施策推進協議会

1	第6期岩手県障がい福祉計画に係る令和3年度上半期実績について	委員名	県の回答
	<p>工賃向上して、障害のある人が夢を持って働けるようになってほしいと強く願っている。今のままだと夢が持てないと感じる。障がいがある方が、自立して生活できる未来になるようにと思う。</p>	時館稔委員	/
	<p>障がい福祉サービスについて、全体数の実績値によれば、一部を除き概ねよい状況であるが、地域によっては、実感として生活介護や短期入所、日中一時支援、グループホームなどのサービスが不足している現状があります。</p> <p>一方、親の高齢化・障がい者自身も年を取っていくなかで、住み慣れた地域で親なきあと、自立した生活を送れるか不安を感じている現状も実感としてあります。地域ごとに検討を行い、地域偏在を解消し、どの地域においても障がい者が必要なサービスを十分に受け、生活できるような体制の整備充実を図っていく必要があると考えます。</p>	伊藤昇委員	<p>地域によってサービスが不足している状況については、地域の関係機関等で構成する自立支援協議会での協議等により、地域内での検討が促進されるよう求めていくなど、市町村と連携しながら支援を継続していきます。</p>
	<p>コロナ禍の2年、大きく落ち込んでいないようで、そのサービスの必要性を感じます。災害時だけでなくパンデミック時でも、安心して一定のサービスを受けることができるよう引き続きお願いいたします。</p> <p>居宅訪問型の児童支援の実績がなかなかありませんが、コロナ禍で精神的にもますます孤立してしまわないような働きかけをお願いいたします。</p>	阿部徳乃委員	<p>新型コロナウイルスを始めとする感染症の流行期や災害時であっても、障がい福祉サービスは、障がいのある方々や、その家族の生活にとって欠かせないものであり、必要な各種サービスが継続されることが重要であると認識しています。</p> <p>これまで、医療的ケア児等の保護者等が新型コロナウイルスに感染した場合の、医療的ケア児等の短期入所の受け入れ先の調整や、事業所における受け入れ体制や搬送体制の整備等に取り組んできたところですが、今後も、障がい児とその家族がコロナ禍においても、必要な支援が受けられることができるよう、取組みを継続していきます。</p>
	<p>自立支援協議会の役割がいまいち不明瞭、もしくは機能していない原因が何かあるのか、せつかくあるこの地域の中心となるべき機関がきちんと機能していないように見える。</p> <p>特に自立支援協議会とサービス事業所の連携が出来ていないので、その辺の仕組みづくりが必要。</p>	野崎芳宏委員	<p>県では、地域自立支援協議会の体制強化のため、平成19年度から地域移行部会を設置し、地域移行の推進には相談支援体制の確立が不可欠であることから、平成27年度からは地域移行・相談支援部会として取組みを進めているところです。</p> <p>これまで、市町村や地域自立支援協議会の構成員等を対象に意見交換会や事務局長会議の開催等を行っておりますが、地域自立支援協議会の活性化のための方策については、今後も県の地域移行・相談支援部会の場において検討を進め、地域に働きかけていきます。</p>
2	第4期岩手県工賃向上計画の策定について	委員名	県の回答
	<p>利用者の工賃も上げることも大切だと思うが、支援するスタッフ側も安心して働いていける事業所が増えていければいいと思う。ハローワークの求人を見ると、スタッフ側も賃金が安いように感じる。</p>	時館稔委員	<p>介護従事者の賃金については、国の新たな「コロナ克服・新時代開拓のための経済対策」で令和4年2月から、賃上げ効果が継続される取り組みを行うことを前提として、収入を3%程度引き上げるための措置（補助金交付）を講ずることとされ、補正予算が組まれており、10月以降は介護報酬での対応となる予定です。</p> <p>県としても今後も介護従事者の処遇改善を国に働きかけて行きます。</p>
	<p>コロナ禍の影響も大きく課題もあると思いますが、引き続き取り組みいただきたいと思います。</p> <p>「ハート購入」についてももう少し周知して言葉が身近になれば、一般の方も、意識して自身の購入につながるのではないのでしょうか。</p>	阿部徳乃委員	<p>ハート購入については、県では毎年度、障害者優先調達推進法に基づく調達方針を作成し、ホームページにて調達可能な物品等及び事業所等の情報を公表しているところです。</p> <p>今後も積極的な活用を促すため、より広く周知するよう努めていきたいと考えています。</p>

2	第4期岩手県工賃向上計画の策定について	委員名	県の回答
	<p>他の都道府県の伸び率と比較すると、本県の工賃水準が高いために頭打ちになっていることが伸び率が鈍化している主な原因であるとは言い難い状況であると分析されています。そうだとすると、伸び率が鈍化していない他の都道府県と本県との違いはどのような点にあると考えられますか？</p> <p>工賃への還元率が減少傾向にある原因としてどのようなことが考えられますか？その対処として、作業の効率化、商品や役務の高付加価値化を挙げられるのはなぜですか。</p>	石井恵子委員	<p>工賃水準が高く、伸び率も高い県においては、事業所へのヒアリングの実施や、企業経営者等で構成している支援チームによる指導・助言など、より事業所に密接に関わる直接的な支援を行っている事例があったことから、本県においても今後の工賃向上のために参考にしていきたいと考えております。</p> <p>また、還元率の減少の要因としては、工賃は、事業の収入から事業に必要な経費を控除した額とされているため、売上総額と工賃の伸び率の相違から、経営手法のノウハウが身につけていない事業所において、経費等の見直しが必要ではないかと考えたものです。</p> <p>そのため、セミナー、研修会等を通じて作業の効率化のためのノウハウや、少ない経費でも価値のある商品を生み出すための高付加価値化についての好事例等の情報提供を行っていきたく考えています。</p>
	<p>工賃向上計画があることで、各事業所でそれを指針に取り組んでいるように感じる。それが数値に現れていると思う。</p> <p>ただ、あくまで平均値なので、工賃の多い人、少ない人で工賃の格差がある現状をどうするかが今後の課題。</p>	野崎芳宏委員	<p>岩手県の平均工賃は全国的見ても高い水準にありますが、工賃の高い事業所と低い事業所の差が大きい現状にあります。</p> <p>今後の取組においては、県全体での工賃向上の他に、工賃の低い事業所を対象に、要因分析等を行い工賃を引き上げるための取組を行っていくことが重要であると考えています。</p>
3	令和3年度障がい者団体との意見交換会について	委員名	県の回答
	<p>8050問題があるが、当事者だけでなく、その家族に対する支援も必要だと感じる。その家族の相談相手やコーディネートする支援者の育成も必要だと感じた。</p>	時舘稔委員	<p>当事者だけでなく、当事者家族への支援については、重要な課題であると認識しています。</p> <p>県では、今後も相談支援専門員の養成研修により人材育成を図りたいと考えています。</p>
	<p>「意見交換会への提出議題の追加として、療育手帳のカード化について」</p> <p>現在の療育手帳については、手帳そのものが大きく持ち歩きに不便で、取り出しにも時間がかかる実態があります。これをカード化することでコンパクトに持ち歩けること、利用する際の手間や時間がかからないといったメリットがあるほか、ICチップを埋め込めば交通系のICカード化も可能なことから、障がいのある人にとって非常に利用しやすいものとなるので、予算が伴うことは理解いたしますが、県として療育手帳のカード化を進めていただきたい。</p>	伊藤昇委員	<p>療育手帳のカード化については、携帯・提示のしやすさや、耐久性の向上といったメリットがある一方で、システム導入・改修に伴う多額の経費の発生、記載内容や別冊の取り扱い、従来型とカード型が混在することによる手帳発行事務の煩雑化、各種減免措置に係る関係機関等との調整等、多岐にわたる課題があり、慎重な検討が必要であると考えています。</p> <p>現時点で療育手帳のカード化は困難な状況ではありますが、今後も、これらの課題を踏まえつつ、対応を検討していきたいと考えています。</p>
	<p>障がい者団体との継続的意見交換会は、いつも丁寧に対応していただいていると思います。形骸化させず、“声”に耳を傾け続け、施策に活かしてほしいと思います。今後も増えていくであろう災害やパンデミックに対応できるよう精査していく必要があると思います。また目に見えない障がい（難病、高次脳含）で手帳や年金がもらえない方々も安定した生活ができるような支援をしたいと思います。</p>	阿部徳乃委員	<p>障がい者団体との意見交換会は、新型コロナウイルス感染症感染防止の観点から、2年連続書面による開催となっております。障がい者の皆様の声を直接お聞きする貴重な機会であると認識しており、今後もいただいた意見を県の障がい者施策に活かして行きたいと考えています。</p>
	<p>第一分科会No14 聴覚障害者協会の意見で「手話通訳らしき」ものとされています。内容がわからないようです。この点は本協議会のことについても当てはまっていて議事録を見て「協議会の内容がわからなかった」「正しく伝わってなかった」という意見をいただきました。ご検討お願いいたします。</p>	狩野徹委員	<p>手話通訳については、担当者のレベルアップのために、県でも研修を実施する他、他団体の実施する研修への参加も行っているところです。</p> <p>今後も研修等により、レベルアップを図り、本協議会の内容を含め、正しい情報を分かりやすくお伝えできるよう努力していきます。</p>